

法 学 号 外  
平成 28 年 8 月 8 日

各 私 立 学 校 長 様  
(小・中・高・特)

岩手県総務部法務学事課私学・情報公開課長

「生徒指導支援資料6『いじめに取り組む』」の正誤表の送付について  
このことについて、平成28年7月26日付け事務連絡にて各学校あて送付しているところですが、別添のとおり訂正の通知がありましたのでお知らせします。

【担当】私学振興担当 中村

電話 019-629-5041 FAX019-629-5049

メールアドレス: AH0007@pref.iwate.jp

事 務 連 絡

平成28年7月28日

各都道府県私立学校主管課 御中

国立教育政策研究所

生徒指導・進路指導研究センター企画課

「生徒指導支援資料6『いじめに取り組む』」の正誤表の送付（再送）について

日ごろより、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの事業等に御協力いただき感謝申し上げます。

平成28年7月25日付け事務連絡で「生徒指導支援資料6『いじめに取り組む』」の正誤表について連絡させていただいたところですが、再度、印刷物の記述に誤りが見つかりましたので、別紙のとおり先日の訂正も含めた正誤表を送付いたします。

度々、お手数をおかけしてしまい大変申し訳ございませんが、関係各所に御周知いただきますようお願いいたします。

なお、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターのHPには、修正後のものを掲載していることを申し添えます。

以上、御協力のほど何とぞよろしくお願いいたします。

※国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターのHP

<http://www.nier.go.jp/shido/shienshiryou/index.html>

本件問合せ先  
国立教育政策研究所  
生徒指導・進路指導研究センター企画課企画係  
〒100-8951 東京都千代田区霞が関3-2-2  
TEL:03-6733-6880 FAX:03-6733-6967  
E-mail: scenter@nier.go.jp

## 正誤表

## 生徒指導支援資料6「いじめに取り組む」

標記資料について誤りがありましたので訂正いたします。

なお、国立教育政策研究所HPに掲載しているPDFファイルについては、修正後のものを掲載しております。

## 1. 対象資料

『いじめ追跡調査 2013-2015』 7ページ

(誤)

こうした入れ替わりは、「週に1回以上」の被害経験者でも同様です。中1の11月時点で66名いた「週に1回以上」の被害経験者ですが、「(前回)」も「週に1回以上」と答えていたのは( )で示した25名です。残る41名(=66-25)は、6月には「月に2~3回」「今までに1~2回」「ぜんぜんなかった」と答えていた生徒です。そして、中1の6月に「週に1回以上」の被害経験を訴えた生徒69名のうち、まったく被害を受けなくなったのは14名、つまり20.2%(=14÷69×100)で、「月に2~3回」に減ったのが10名、「今までに1~2回」に減ったのが20名、つまり43.5%(=(10+20)÷69×100)です。結局、半年後も高頻度の被害経験が繰り返されたのは、36.2%(=25÷69×100)だけです。

(正)

こうした入れ替わりは、「週に1回以上」の被害経験者でも同様です。中1の11月時点で66名いた「週に1回以上」の被害経験者ですが、「(前回)」も「週に1回以上」と答えていたのは( )で示した25名です。残る41名(=66-25)は、6月には「月に2~3回」「今までに1~2回」「ぜんぜんなかった」と答えていた生徒です。そして、中1の6月に「週に1回以上」の被害経験を訴えた生徒69名のうち、まったく被害を受けなくなったのは14名、つまり20.3%(=14÷69×100)で、「月に2~3回」に減ったのが10名、「今までに1~2回」に減ったのが20名、つまり43.5%(=(10+20)÷69×100)です。結局、半年後も高頻度の被害経験が繰り返されたのは、36.2%(=25÷69×100)だけです。

(誤)

では、小学4年生から中学3年生までの6年間を通して見た場合にはどうでしょうか。前ページに示した中学生が小学4年生だった2010年までさかのぼり、6年間12回分の結果を示したのが、図5です。まず、左の被害経験ですが、6年間分のデータが揃っている574名中で12回にわたって「週に1回以上」の被害の回答が続いたのは0名、最高は10回続いた1名(0.17%)、そして12回にわたって経験がなかったのが55名(9.6%)でした。また、右の加害経験でも、6年間分のデータが揃っている570名の中で、10回にわたって「週に1回以上」の加害の回答が続いたのが1名(0.15%)、そして12回にわたって経験がなかったのが80名(8.2%)でした。

(正)

では、小学4年生から中学3年生までの6年間を通して見た場合にはどうでしょうか。前ページに示した中学生が小学4年生だった2010年までさかのぼり、6年間12回分の結果を示したのが、図5です。まず、左の被害経験ですが、6年間分のデータが揃っている574名中で12回にわたって「週に1回以上」の被害の回答が続いたのは0名、最高は10回続いた1名(0.17%)、そして12回にわたって経験がなかったのが55名(9.6%)でした。また、右の加害経験でも、6年間分のデータが揃っている570名の中で、10回にわたって「週に1回以上」の加害の回答が続いたのが1名(0.18%)、そして12回にわたって経験がなかったのが55名(9.6%)でした。

(誤)

そこで、この傾向がいつから始まったのかを確認したのが、図6です。小4から小6になるまでの3年間の経験の継続状況を、2010年度の小4から示してあります。左側の被害経験率では、「ぜんぜんなかった」と答えた児童は、4年前の13.2%(=93÷707)、3年前の16.7%(=99÷593)、2年前の13.8%(=96÷694)、そして今回(図4)の11.5%となります。それに対して、右側の加害経験率では、それぞれ14.3%(=101÷703)、17.7%(=123÷695)、21.3%(=147÷689)、そして今回(図4)の21.4%となります。小4から小6まで被害経験が「まったくなかった」と答えた児童は直近の3年間で減少傾向を示すのに対し、加害経験はこの4年間、増え続けてきたことが分かります。

(正)

そこで、この傾向がいつから始まったのかを確認したのが、図6です。小4から小6になるまでの3年間の経験の継続状況を、2010年度の小4から示してあります。左側

の被害経験率では、「ぜんぜんなかった」と答えた児童は、4年前の13.2% (=93÷707)、3年前の14.2% (=99÷696)、2年前の13.8% (=96÷694)、そして今回(図4)の11.5%となります。それに対して、右側の加害経験率では、それぞれ14.4% (=101÷703)、17.7% (=123÷695)、21.3% (=147÷689)、そして今回(図4)の21.4%となります。小4から小6まで被害経験が「まったくなかった」と答えた児童は直近の3年間で減少傾向を示すのに対し、加害経験はこの4年間、増え続けてきたことが分かります。